



3-25

この寺院も、天と地を結ぶものの象徴として、長くうねる胴体をもつ
ナーガの姿が階段の意匠に使われている。

さらによく知られた美しいデザインは、ランパン県
コーカ地区のワット・プラタートの階段に現れる。

1475年頃に築造されたこの寺院は、岩石で積み重なる
丘の上に建てられている。長くうねるナーガの優美な
姿が斜面の階段に現れ、天と地を結ぶナーガの力が象
徴されている。

4 ナーガ、神の化身としての国王の象徴

タイの国王が水上運行パレードで乗られる御座船や、
御大葬の際の葬儀車にも、ナーガのモチーフや造形が
数多く登場する。

王室用の客船、アナンタナーカラートはラーマ4世の
ために建造されたものだが、その船首は、ヴィシュヌ

3-25▶巨大なナーガの胴のうねりが
本堂を貫いて長々と伸びる、
ワット・ブーミンの特異なデザイン。
3-26▶タイ王室の葬送の行列、
(ラーマ7世の王妃を送る1985年のもの)。
無数のナーガとガルーダに
支えられた黄金の葬儀山車が、
曳きだされる。
3-27▶ラーマ4世
(在位1851-68)時代の御座船。
全長44.85メートルの優美な船体。
船首には、黄金とガラス装飾に彩られた
七つの頭を持つナーガが飾られている。
3-28▶ラーマ5世(1868-1910)時代の
王室用客船の船体の両側面には、
七つの頭をもつナーガが彫りこまれている。
船首に動物神の姿はない。
国王はヴィシュヌ神の化身として
この船に乗る。
●タイ王家の黄金の葬儀山車については、
シンボジウムシリーズの第一冊目、
『動く山』(左右社、2012)の
「タイ王室の葬儀車。靈魂を
天界に運ぶ」に、詳細に記されている。



3-26



3-27



3-28